



平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【京都府立久美浜高等学校】

1 実践テーマ	【 III 】
2 実施対象者	京都府立久美浜高等学校全学年生徒（250名）
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名（平成30年度オリンピック・パラリンピック教育推進事業に係る講演会）</p> <p>③ その他（カヌー部との合同練習）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>(1) 多様性を尊重し、共生社会の実現に貢献できる人材を育成する。</p> <p>(2) 自己肯定感を高め、自己の可能性に挑戦する姿勢を養う。</p>
5 取組内容	<p>(1) 7月11日(水)</p> <p>1年生カヌー実習（1年生全クラス対象）</p> <p>カヌーの楽しさと難しさを実感する機会となった。毎年実施し、生徒全員がカヌー経験を持つ。</p> <div style="text-align: center;">   </div>

(2) 10月18日(木)～20日(土)

大韓民国瑞寧(ソリョン)高等学校訪問 (本校2年生カヌー一部生徒3名、2年生一般生徒1名参加)
瑞寧高等学校カヌー一部生徒と交流した。



(3) 10月29日(月)～11月5日(月)

講演会事前学習 (全校生徒対象)

「体育」の各講座の授業で実施した。

国際パラリンピック委員会公認教材「I'mPOSSIBLE」によりパラリンピックについて学んだ後、講演会の講師である辰己博実氏を特集した、NHKの「道徳ドキュメント」(「あきらめたことをあきらめない」というタイトルで2014年1月24日に放送)という番組のDVDを視聴した。

(4) 11月6日(火)

ア **講演会** (全校生徒対象)

演題 「あきらめたことをあきらめない」

講師 辰己博実氏 (パラカヌースプリント日本代表)



イ **合同練習** (カヌー一部生徒対象)

(5) 11月7日(水)

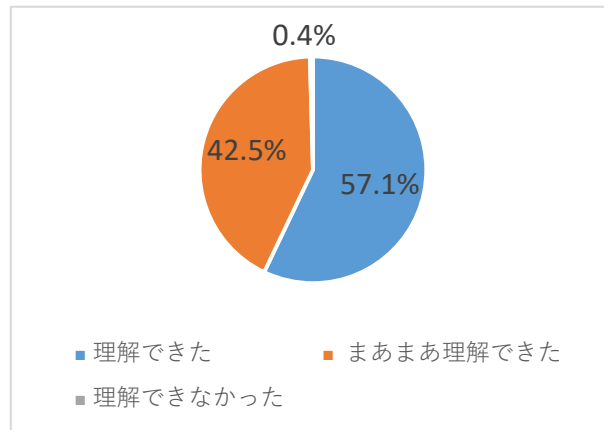
講演会事後学習 (全校生徒対象)

講演会を振り返り、アンケート・感想を記入した。

6主な成果

(1) 講演会事前学習アンケート結果

- ① 「I'mPOSSIBLE」と「道徳ドキュメント」（あきらめたことをあきらめない）を視聴して、パラリンピックについて理解できたか。



② 「I'mPOSSIBLE」についての感想（抜粋）

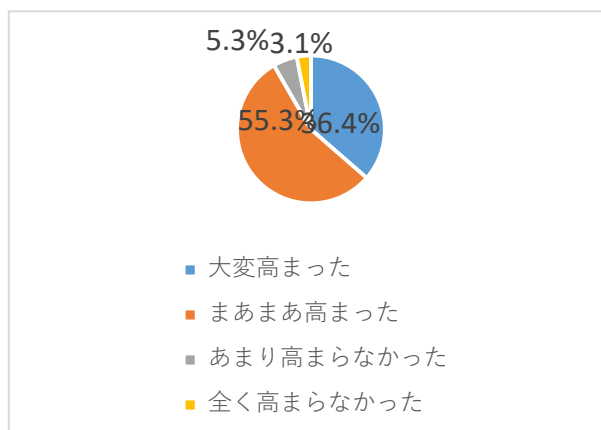
- ・パラリンピックは、私が想像していたよりもすごかった。足がなくても手がなくても、それでもスポーツを続けていて、続けようとする意志が強くて刺激を受けた。普通とは違うやり方だけど、それぞれの人に合ったやり方で競技していてカッコいいと思った。
- ・私が知らなかった種目があって少し驚きました。2020年のパラリンピックで何かしらの形で関わられたらいいなと思いました。競技をしているときの選手の表情がとても素敵だと思いました。スポーツに壁はないんだなと感じました。
- ・障害があってもなくても、スポーツは人を前向きにさせるものだと改めて思われました。映像とスライドを見て、私はとても感動しました。スポーツはどんな人にも必要なものだと思います。
- ・みんな必死にやっていて、障害があるのにいろいろなスポーツができていてすごいと思ったし、悔し涙を流していたり、嬉し泣きだったり、笑ったりしていて、何かいいなと思った。競技によって車いすが違うことが分かった。水泳でもいろいろなスタートの仕方があることも分かった。
- ・体に障害がある人でも、自分の個性を生かし、それをいろいろなスポーツに使い、世界で活躍している姿は画面越しでもとてもカッコよかったし、違う国の選手でも、抱きしめ合ったり、涙を流したりしている場面はとても良いと思い、印象的でした。
- ・公正な機会が与えられている場がパラリンピックだというのはすごくいいと思った。差別を減らせる1個の方法だと思う。
- ・障害があっても普通の人とは違う体でも、普通の人以上のパフォーマンスや、勝ちに対する気持ちが表れていて、カッコいいなと思いました。パラリンピックはオリンピックよりも知名度が低いけれど、湖の映像を見て、パラリンピックも見てみようと思いました。

③ 「道徳ドキュメント」(あきらめたことをあきらめない) についての感想(抜粋)

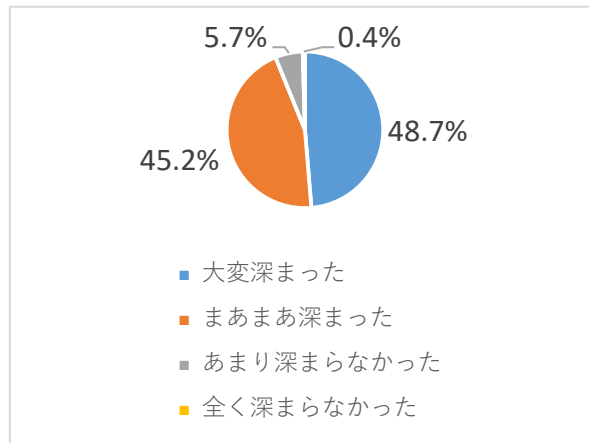
- 自分の好きなことができたときの表情がとても素敵だと思いました。私は、将来、障害のある人たちとも関わっていききたいから、そういうことも考えたら、いろいろな知識を持って心の面で支えられるようになりたいと思いました。やりたいと思う気持ちと挑戦することの可能性は無限大だと感じました。自分も前向きに生きたいし、人のためになることがしたいと思いました。
- 何かに失敗しても、失うことはあっても得るものもその分たくさんあるということがすごく印象に残った。とても前向きで見習いたいと思った。
- 自分でスキーの道具をつかって、それでプロの選手になり、ゼロからのスタートで、苦しいこともたくさんあるのに、それを乗り越え、自分のできること、やりたいことを体現していて、すごいなと思いました。怪我をして、足が不自由になって、つらい思いもたくさんある中、前を向いてすごいなと思いました。
- 一度あきらめたことをもう一度するのは勇気がいると思うから、挑戦できるのはすごいと思う。あきらめずにがんばることは本当に大事だと思ったし、がんばるからいろいろな人に応援されて、助けてもらえて、さらにがんばれるんだと思った。
- 努力は報われるんだなと思いました。自分のやりたいことをどうにかしてやろうとして、その努力が人に伝わり、共に協力し合うことになり、やりとげることができる。それはすごく良いことだなと感じました。努力し、やりとげだけでなく友情もできて素晴らしいと思いました。
- 気づいたら前のめりになってしまっていて自然と入り込んでしまいました。こんなことであきらめたらダメだなと思いました。ポンポンと次々にやりこなしていく辰己さんの動画を見てなにかと元気が出ました。あと、もっと外に出ようと思いました。インドアもいいんですが、アウトドアの世界も味わってみたいと思いました。

(2) **講演会事後学習** アンケート結果

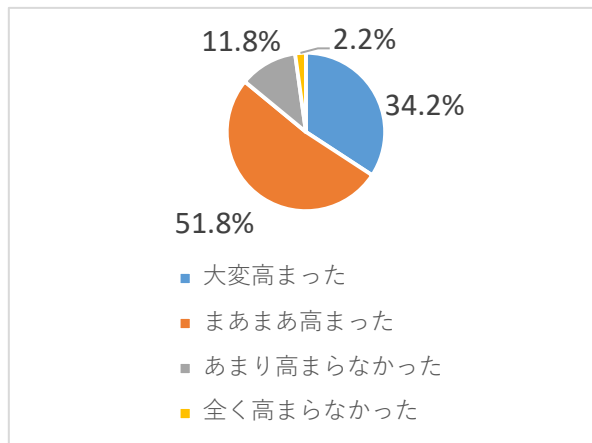
① オリンピック・パラリンピックへの関心が高まったか。



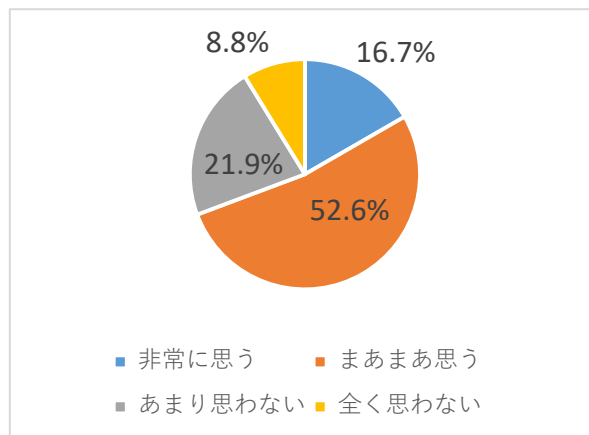
② 障害者への理解が深まったか。



③ 自分の可能性に挑戦しようという気持ちが高まったか。



④ 今後、地域で開催されるスポーツイベントに、スタッフやボランティアとして参加してみようと思うか。



⑤ 講演を聞いた感想（抜粋）

- 辰己さんはすごい人だなと思いました。五体満足の私よりポジティブでフットワークが軽く、そして人生を楽しんでいる所を見ていると、障害を持つ人たちにかわいそうと思うことがとても失礼なことなのではと思い始めました。結局、足が動くか動かないかだとか、目が見えるか見えないかなんて何の関係もなく、どう行動するかが大切なんだとわかりました。2020年のパラリンピックもしっかり見とどけて、私の将来の支えになれば良いなと思いました。

- 人はあきらめないかぎりなんでもできるということを改めて思いました。怪我をして自分のしたいことが例え0からのスタートになっても、自分でどのようにすれば自分のしたいことができるのか。そのためには何をしないといけないのかをしっかりと考えて、何度失敗してもあきらめずすればきっとできるようになるということを感じさせられました。自分は将来怪我をした人を助ける仕事に就きたいと思っているので、怪我をしてからもまた何かに挑戦する人をしっかりサポートできるようになりたいです。
- 壁にぶつかってもそこで立ち止まるんじゃなくて、それを乗り越えていくためにどうしたらいいかを考えさせられた時間だった。
- 間々の大切さを実感しました。一人ではできないことも支えてくれる人がいればできるし、また、仲間に頼れることも辰己さんの強さだと思いました。本気で何かをがんばっている人には自然と人が引き寄せられると感じ、そんな人になりたい、だれかを支えられる人になりたいと思いました。何事にも挑戦することを忘れず、力いっぱい取り組んでいきたいと思いました。
- 自分もいろいろなことに挑戦しようと思いました。これからボランティアとかいろいろなことに参加して、地域のためになるようなことをどんどん何かしていきたいなとすごく思いました。
- 障害者の方に対するイメージが、この講演を聴いて180度変わりました。取り返しの付かないことにあってしまうと、スポーツ等が難しくなるのかと失礼なことですが正直思っていました。しかし、それは先入観で、可能性が無くなるのではなく、新たな可能性を生み出していることを学びました。辰己さんのようないろいろな物事にチャレンジする精神を私は見習いたいと感じました。
- とても心に響きました。オリンピック・パラリンピックの話聞いて、一人ひとりが違う気持ちを持ってオリンピックを迎えて、目標をもち生きることの一つの意味としてパラリンピックがあると思いました。障害者だからという理由で世間から差別される人は今でもいるので、僕は今回の話を聞いて「障害者だから～」という言葉の世界からなくしていきたいと思いました。障害者も一人の人間としてたくましく生きていくことを尊重し、また、世間でも障害者の方についての理解をもっと深めるべきだと思いました。障害者がパラリンピックに向けて（パートナーの方達と一緒に）練習し、一生懸命頑張った結果として、努力が実するというシーンを見てとても感動しました。僕は「誰が～だから～だ」という言葉がとても嫌いです。なぜならば結果論でしかないからです。でも、もし協力し合って競技を成立させることができたなら、「～と一緒に努力してその結果幸せになれた」という結果が残せて、自分ひとりだけじゃなくて周りも幸せにできるという意味でも、パラリンピックは見るだけでとても価値があると思う。（オリンピックも同じ）

	<p>(3) アンケート結果から窺える成果</p> <p>① オリンピック・パラリンピック（特にパラリンピック）への関心が高まった。</p> <p>② 障害者への理解が深まり、多様性を尊重し共に支え合って生きる社会を実現しようとする意欲が高まった。</p> <p>③ 自分の可能性に挑戦しようという気持ちが高まった。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1) 本校は全国大会や国際大会出場選手を輩出するカヌー強豪校であり、また、毎年7月に1年生全員対象のカヌー実習を行っているため、主にカヌー競技をとおしてオリンピック・パラリンピック教育の推進を図りたいと考えた。</p> <p>(2) 事前学習を行い、関心を高めた上で講演会を実施した。</p> <p>(3) 競技実績だけでなく、本校生徒に必要なメッセージを伝えていただけるかどうかという点を重視して講師を選定した。</p>
8主な課題等	<p>(1) 本校が所在する京丹後市では、2020年東京オリンピック・パラリンピックのホストタウンとしての取組や久美浜湾カヌー競技場で開催される「ワールドマスターズゲームズ 2021 関西」のカヌーマラソンに向けた準備が進められている。本校生徒は、地域で開催される「歴史街道丹後 100km ウルトマラソン」に毎年ボランティアとして参加しているが、スポーツイベントの企画運営に携わり、地域のスポーツ振興に貢献しようという意欲が、本事業をとおしてさらに高まることを期待した。しかし、講演会事後アンケートの「地域で開催されるスポーツイベントに、スタッフやボランティアとして参加してみようと思うか。」という質問に「非常に思う」と回答した生徒が17.5%、「まあまあ思う」と回答した生徒が52.4%であり、オリンピック・パラリンピックへの関心の高まりと比較すると、やや低い結果となった。ほぼ7割の生徒が「参加してみようと思う」と答えてはいるが、実際に行動する生徒はさらに少ないと考えられ、関心の高まりがそのまま行動に繋がるわけではないという点が課題である。</p> <p>(2) 今年度は講師選定がうまくいき、大きな成果があったが、今年度を上回る講師の招聘はかなり難しく、継続したテーマで取り組むなら、来年度以降は講演会以外の形式で行う方が良い。</p>
9来年度以降 の実施予定	<p>(1) 障害者や高齢者とのスポーツをとおした交流（カヌーなど）</p> <p>(2) 地域のスポーツイベントへの積極的参加</p>

オリンピック・パラリンピック教育 講演会
「あきらめたことをあきらめない」
講師 辰己 博実氏

毎日新聞
平成30年11月7日発行

「やりたいこと、とことん」

パラカヌー日本代表 辰己さん講演 京丹後
パラカヌー部門日本
代表の辰己博実さん
(41)は6日、「あきら
めたことをあきらめな
い」と題して京丹後市
今も北海道の雪原をチ

「やりたいことを見つけ、とことんやってほしい」と語る辰己博実さん。京丹後市久美浜町で



エアスノーボードで滑
り、サーフィンを楽し
む。「本気でぶつかれ
ばいろいろな人が見て
くれ、協力してくれる。
やりたいことを見つけ
け、とことんやってほ
かしい」と呼び掛けた。
徳島県出身。現在は
テス・エンジニアリン
グ株式会社所属す
る。家業の鉄工所を継
ぐつもりだったが、敷
かれたルールを外れる

こと」を決意。北海道 先の病院のプールに力
に移住し、川下りや山
のガイドを仕事とする
ようになった。200
8年、スノーボードを
していて背中を強打。
脊髄損傷で歩けなくな
ってしまった。医師か
ら「一生、車椅子だよ」
と言われ、絶望した。
妻や子どももおり、生
活がかかっていた。
しかし、一筋の光を
見いだした。自分には
車の運転ができる。好
きな所に移動できる。
パウダースノーを滑っ
ている海外のチエラス
キーの写真を見て「す
ごい」と感動した。カ
ヌーもできるかもしれ
ないと思った時、入院
先は2020年の東
京パラリンピックの出
場を目指している。
「一人では何もでき
ない。人の助けがど
うしても必要です。助
けてくれる仲間、サ
ポートしてくれる人が
増えていきます。今はあ
きらめない。やりたい
ことをとことんやりま
す」と語った。
【塩田敏夫】

京都府立久美浜高等学校
〒629-3444
京丹後市久美浜町橋爪65
TEL 0772-82-0069
FAX 0772-82-0690

